

# 会報

第11号 令和7年12月25日  
発行 研波市防災士連絡協議会  
交流広報委員会  
委員長 信田 朋美  
連絡先 0763-33-1247  
(市総務課防災・危機管理室)

## 防災教育に協力しています。

(各校下で行う際には、皆さんのご協力をお願いします)

令和7年10月9日(木)

五鹿屋地区防災士 1名参加  
砺波市立南部小学校4年生  
「避難所の体験」35名参加

五鹿屋地区で購入したかまど  
などの説明を実施しました！



令和7年10月17日(金)

太田地区防災士 2名参加  
砺波市立庄南小学校少年消防クラブ(6年生)  
「避難所の体験」38名参加

段ボールベッドの組立て・撤去  
などを体験しました！



令和7年11月4日(火)

出町地区防災士 3名参加  
砺波市立出町小学校(4年生)  
「避難所の体験」76名参加

非常持ち出し袋及び段ボールベッド  
簡易トイレなどの説明を実施しました！



令和7年11月13日(木)

般若・梅檀野地区防災士 2名参加  
砺波市立庄東小学校少年消防クラブ(5年生)  
「避難所の体験」23名参加

段ボールベッドの組立て・撤去  
などを体験しました！



## 《お知らせ》 行政出前講座のご案内

災害による被害を最小限に止めるための家庭や職場の防災対策等についてお話をさせていただきます。

「行政出前講座」を実施しています。下記の連絡先にお気軽にご相談ください。



[事務局] 砧波市企画総務部総務課防災・危機管理室 TEL: 33-1247 FAX: 33-7330 E-mail: somu@city.tonami.lg.jp

# 砺波市防災士連絡協議会

<会員数 204名 内訳:男性137名 女性67名>

## 「8/3(日) 防災士による避難所運営勉強会」について

場所 砧波市役所 小ホール及び大ホール 研修委員会 理事 吉田 里美(若林)

今回の参加者は51名、そのうち避難所運営の経験者は5名でしたが、皆さんそれぞれ自分の地域だったらどうするだろうと真剣に話し合い次のような意見交換ができました。

地区役員や市職員は来ないものと思い、集まった人達で運営するなど、避難所の鍵がどこにあるか確認、その間に避難所建物の安全を確認(深呼吸してから中へ)、建物内部の安全も確認してから被災者を中に入れる。また、建物の安全確認中にも被災者の受付優先(弱者)を順位を決めて被害状況の聞き取りをする。(名簿作成)

病人対応については、いち早く救護班(地区の医療従事者の方に依頼)を設置、プライバートテントを利用、発熱者と一般の方とは同じ場所にしない(緊急車両などが入りやすい場所等、事前に考えておく)。

トイレの位置も考慮(発熱者用、男女など離すなど)、病人は家族同伴の方が安心。

ペット同伴者だけの避難場所を設置(ただしペットはケージに入る)、ペットの適切な避難場所がない場合は自家用車対応を依頼するなど、たくさんの意見がありました。いろいろな地区の避難所の様子を聞くこともできました。避難所が学校校舎のように部屋がある地区と体育館の様に何の間仕切りがない施設を利用しなければならない地区とでは当然出される回答が違っていました。

梅檀山地区では、大雨の予報がでると土砂崩れの危険があるので避難所が開設されるそうです。住民一人一人が、その時どう行動するのか考えておられるように感じました。また、ほかの地区との温度差を感じました。

最後に、各地区で備蓄されているプライバートテント、簡易トイレ、段ボールベッドの組立て及び撤去なども体験した、よい研修でした。



## 「8/31（日）イオンモールとなみ防災フェスティバル」について

場所 イオンモールとなみ

総務企画委員会 副委員長 鍋本 淳子（柳瀬）

イオンモールとなみ主催による「イオンモールとなみ防災フェスティバル」に参加しました。

当防災士連絡協議会では、簡易トイレの配置、女性に配慮した間仕切テント、段ボールベッドを設置したミニ避難所の体験ブースを開設し、ベッドの組立、簡易トイレの使用方法など、防災啓発いたしました。また、砺波市マイタイムラインシートは、防災士の説明を受けながら記入できる体験型の展示コーナーを実施しました。

防災用非常持出袋の展示では、一般的な品物と100円でそろえられる品物を展示しました。

準備されている方、いない方、それぞれでしたが、実際に目にし手に取り改めて気付いた物もあったとの事で、パンフレットは参考になると意欲的にもっていかれました。

新しい試みとして、今回は“ぼうさい NURIE”のコーナーを開設し、親子で話しながらリュックに入れる物選び、色を塗り、防災リュックを完成させるぬり絵です。楽しみながら防災意識を感じて頂けたようで防災啓発の一環になったものと思います。

同時にシェイクアウト訓練が11:00、12:30、14:00と実施されました。

災害発生時に取るべき基本的な安全行動を実践する事で、その行動が身に付きやすくなると思います。

いざという時の自分の命を自分で守る為の日頃からの備えと知識を、今回の各ブースにお立寄り頂いた方々がそれぞれの防災意識を少しでも高めて頂けた事で、自分事として捉えるきっかけになって頂けたらうれしいです。



## 「9/28（日）令和7年度砺波市防災デー/砺波市総合防災訓練」について

場所 富山県西部体育センター

防災啓発委員会 委員長 間馬 和宏（雄神）

今年度の総合防災訓練は、砺波市が主体となり防災関係機関・団体、医療機関、地区自主防災組織及び一般住民等が、相互に協力し災害時に実効性のある災害応急対策の実践的訓練を目指し、本年度は富山県と合同（砺波市はサブ会場）で開催されました。

また、同日を「砺波市防災デー」とし市内全域を対象としながら、柳瀬会場（西部体育センター）を主会場として油田会場、南般若会場で市民一斉訓練が同時刻開催されていました。

当防災士連絡協議会は、主会場の西部体育センターで設置された防災啓発会場内で“防災〇×クイズ”“ぼうさい NURIE”を実施し、啓発活動に努めています。会場内は、一般住民に加えて県や市の視察、防災関連企業の出展ブース、ケーブルテレビの取材など人流は多いものの、スーパーの防災イベントとは異なりブースでの滞在時間の短い中“防災〇×クイズ”への参加者は多く、景品配布効果も大きかったように感じました。今後も機会に応じて防災啓発に努めたいと考えています。



## 「11/21（金）防災意識向上プロジェクト防災講演会」について

場所 庄川生涯学習センター

防災啓発委員会 理事 幡谷 政昭（油田）

防災意識向上プロジェクト語り部 住永忠士氏を講師にお招きし、防災講演を開催しました。なお、住永氏は元自衛官で数々の救助活動及び能登半島地震でも応援職員として珠洲市に派遣され、避難所対応をされた体験談の講話でした。また、砺波地域の災害及び庄川の風水害、砺波断層と地震についても触れられ、防災マップの活用及び家屋の耐震診断など日頃の備えが必要と感じました。今回の講演会に参加して自分の身は自分で守り、防災士としてまず何かすべきかを考えさせられる講演会となりました。身近な人や、地域の人にもっと防災意識の必要性を伝えたいと感じました。

